

1月28日(木曜日)

ドル/円

オバマ新金融規制への言及はどこまで？

27日(水)の主な推移

ダウ平均株価

10236.16ドル
(+41.87ドル)

米長期金利
(10年債利回り)

3.6479%
(+0.0291%)

NY原油先物

73.67ドル
(-1.04ドル)

チャート: 30分足 27日(水)朝7時 ~ 28日(木)朝7時



※チャートは30分足 日本時間にて表示 ※左表は終値ベース、()は前日比
出所:外為どっとコム

①

「北朝鮮が韓国付近の航行禁止海域に砲弾を発射した後、韓国が撃ち返した」との報道を受け、地政学的リスクが市場で意識されると、クロス円(ユーロ/円、豪ドル/円など)を中心にリスクを警戒した円買い戻しが相次いだ。また、中国株の下落もこの流れに拍車を掛けた。

②

英金融政策委員会(MPC)のセンタンス委員が「景気の回復が強まり、ポンド安がインフレを引き起こすなら、MPCは政策を変更する準備をしなければならない」と発言したことで、英金融引き締め観測が台頭し、ポンド/円でポンド高・円安が進行。これを受けてドル/円も円売り優勢の展開となった。

③

日本時間28日4時15分に発表された米連邦公開市場委員会(FOMC)声明では目立った変更はなく、政策金利は市場予想通り0.00~0.25%に据え置かれた。しかし、数年ぶりにFOMCでの投票権を持ったホーニグ・カンザスシティ連銀総裁が、「長期にわたり異例の低金利を維持」との文言の据え置きに反対票を投じたことが明らかになると、米国の早期利上げ観測が台頭し米長期金利が上昇。これを受けてドル/円相場では急速にドル高・円安が進み、6時前には90.08円の高値を付けた。

巻末の特記事項を必ずお読みください。

上昇要因(ドル高・円安)

- ・米経済の回復
- ・米長期金利の上昇
- ・米国の超低金利政策の長期化観測の後退
- ・大手格付け会社による日本国債格付け見直し引き下げ
- ・日本の政局の混迷
- ・金融市場全体のドル売りムードの緩和
- ・日銀の追加資金供給
- ・日本政府による市場介入への警戒感
- ・日本の財政赤字への懸念

下落要因(ドル安・円高)

- ・米金融新規制案への懸念
- ・米国の超低金利政策の長期化観測
- ・米長期金利の下落
- ・米経済の回復の鈍化
- ・外貨準備通貨としてのドル需要の減退
- ・米財政赤字悪化懸念の高まり
- ・金融市場全体のドル売りムードの高まり

本日の見通し

本日の予想レンジ: 88.70-90.70円

本日一番の注目は、日本時間11時から始まる、オバマ米大統領の一般教書演説だ。先週オバマ大統領が提案した新金融規制案については、海外要人から好意的な意見と否定的な意見が交錯するような状況であるが、この件にさらに踏み込んだ発言があれば材料視される公算が大きく、注意が必要だ。規制強化への態度が比較的緩むようならばドル高、規制強化へ向けてさらに意欲的な態度を見せればドル安で反応するとみる。

また、NY時間に発表予定の米耐久財受注や新規失業保険申請件数も注視したい。29日に米第4四半期国内総生産(GDP)・速報値の発表を控えて、基本的には大きな反応にはならないと考えられるが、予想から大幅に乖離した結果が出れば材料視される可能性もある。

日足チャートを見ると、先週末以降のドル/円は、昨年11月27日の安値84.79円と今年1月8日高値の93.78円の半値押しとなる89.28円から38.2%押しとなる90.35円の中に概ね収まる値動きとなっている。このレンジの上下どちらかに放れば、その方向に強いトレンドが発生すると考えられる。レンジの上限及び下限に値段が接近したときには、慎重に方向性を見定めたいところだ。

本日から明朝の注目イベント

※注目度が高い順に「◎」「○」「無印」で表示 時間は「日本時間」

日付	時間	注目度	経済指標、イベント等	前回発表数値	市場予想
1/28(木)	11:00	◎	(米) オバマ大統領 一般教書演説	—	—
	22:30	○	(米) 12月耐久財受注 [前月比]	+0.2%	+2.0%
	22:30	○	(米) 12月耐久財受注 [前月比: 除輸送機器]	+2.0%	+0.5%
	22:30	○	(米) 1/24までの週の新規失業保険申請件数	48.2万件	45.0万件
1/29(金)	8:30	○	(日) 12月全国消費者物価指数[前年比]	-1.9%	-1.7%
	8:30	○	(日) 12月全国消費者物価指数[前年比: 除生鮮]	-1.7%	-1.3%

※発表時刻は予告なく変更される場合があります。また、※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2010 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com